

2024 冬号

# しまさい

Mission **ZERO**  
2050 Mie



四日市市立西笹川中学校 3年生 山中 瑛美 (やまなか えいみ)

令和5年度「三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」  
最優秀賞(中学生の部)

三重県環境生活部環境共生局地球温暖化対策課

# すすむ気候変動 かわる暮らし

## 気候変動で変わる雪の降り方

気候変動が進んで、平均気温が高くなると、暖かい空気は、冷たい空気にくらべてたくさん水分を含んでいられるので、1年間の雨の降る日数は少なくなります。

その一方で、大雨の降る回数は増えます。雨が降りやすい気象条件が整えば、空気中のたくさんの水分が雨になるからです。

では、雪はどうでしょう。

冬になっても海水温が高く、海から空気中に多くの水分が供給されるため、雪が降るような気象条件が整うと、雨と同様に大雪になることがあります。



大雪当日の日永駅 (画像提供: 四日市あすなろ鉄道)

三重県では、昨年(2023年)1月25日に四日市市の中心市街地で20センチ近い積雪がありました。同じような大雪は、2017年1月14日から



16日にかけても、三重県北勢地域や伊賀地域で降り、鉄道や路線バスの運休や遅延が相次ぎ、停電、スリップ事故等も発生しました。

なお、気候変動と雪の関係について、もっと詳しく知りたい方には、三重県松阪市出身で、現在、気象庁気象研究所の主任研究官を務める川瀬宏明さんの「地球温暖化で雪は減るのか増えるのか問題」という本がおすすめです。

日本の近海の海面水温は、100年あたり1.24℃上昇しています。三重県にもっとも近い四国・東海沖では、100年あたり1.35℃上昇しています。また、四日市市等の北勢地域の雪は日本海から流れ込む雪雲が降らせませんが、日本海南西部では、100年あたり1.47℃上昇、日本海中部では、100年あたり1.87℃上昇しています。

## 気候変動とニホンジカの増加

日本国内(本州以南)のニホンジカの生息数は2014年度をピークに近年は減少に転じたものの、過去に比べ依然として高い水準にあります。

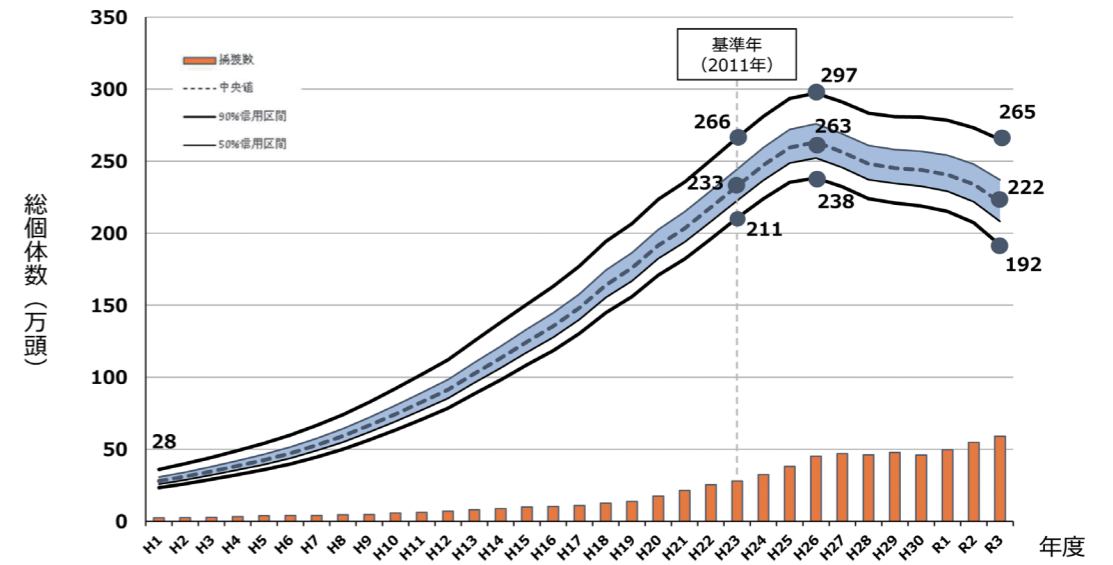
ニホンジカが増えた背景には、造林や草地造成による餌となる植生の増加、戦後長く続いた捕獲規制、狩猟者の減少等、様々な原因があると考えられていますが、その一つに、地球温暖化によって冬を中心とした年間の積雪量の減少が挙げられます。

三重県においてもニホンジカは生息域を山間部から平野部へと広げており、現在はほぼ県全域で生息が確認されています。

ニホンジカの生息域が山間部でも広がることにより、御在所岳に生息するニホンカモシカが本来の生息場所を追われることや、食害により貴重な植物が失われる等、自然生態系への影響も深刻です。また、県内におけるニホンジカによる農林業の年間被害額(2020年度)は1億7,600万円に上っています。

日本の平均気温は、100年あたり1.30℃上昇しています。気温の上昇により日本各地で年間の積雪量が減ること、雪に弱いニホンジカが生息できる範囲が広がっているなど、地球温暖化の影響は様々な所で表れてきているのです。

ニホンジカ(本州以南)の個体数推定結果



(グラフ出典: 環境省 2023年4月4日付け報道発表資料)

# みえ環境フェア2023



2023年12月10日に「みえ環境フェア2023」が開催されました。

今年は、「未来のために今、私たちができること」をテーマに産官学民のパートナーシップによって開催されました。ステージ上では、開会挨拶の後に、「三重県地球温暖化防止活動推進員」感謝状贈呈式、「三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」表彰式が行われました。



開会挨拶 三重県地球温暖化防止活動推進センター朴センター長



開会挨拶 三重県環境生活部環境共生局枡屋局長



推進員感謝状贈呈式



ポスターコンクール表彰式

その後、環境トークとして「若者と創る持続可能な循環型・脱炭素社会三重創生」をテーマに、県内の学生(三重大学、四日市大学、鳥羽商船高等専門学校、四日市農芸高等学校、桑名高等学校、三重高等学校)によるSDGs及びカーボンニュートラルに関する活動報告、センター長と学生による意見交換が行われました。学生からは、カーボンニュートラルに向けた力強い思いが語られ、白熱した意見交換となりました。



環境トークの様子

展示場では、EV・FCV(エコカー)展示や、自然の木の实を使ったミニクリスマスツリー作り体験、子ども免許証の作成、人力自転車発電体験など、64ブースが出展され、参加した子供たちが環境に関する取組を楽しそうに体験している様子が見られました。また、食品ロス削減の取組の一環として、規格外品の廉価販売を行う「もったいない市」も開催されました。その他、高校生による野菜や花、加工品の販売も行われました。



三重県気候変動適応センターは、地球温暖化対策課と共同で地球の未来について考えてもらおうと「ミライ地球ガチャ」を出展しました。「ミライ地球ガチャ」は、ガチャを回すと、未来の地球から身近な気候変動による影響に関するお題が出題され、展示物や資料を見ながら気候変動による影響やその適応について自分で考えて答えるというものです。参加した方には、どうすればみんな元気でいられるのか、今と同じ暮らしを続けられるのか、地球の未来を一緒に考えてもらいました。

当日は天候にも恵まれ、約5,000人と、多くの方に来場をいただきました。2024年度も開催予定です。皆さまお誘い合わせの上、是非、お越しください。

※ フェア開催に伴い、来場者と出展者の移動、会場の照明・暖房、ポスター・チラシの印刷等で排出されるCO2については、井村屋グループ株式会社様から自社工場でのCO2削減分のクレジットを提供いただき、オフセットが行われました。

## 環境イベント情報

三重県環境学習情報センター

### ポスターコンクール入賞作品の展示

3/16~28  
(土) (木)

4/4~5/6  
(木) (月・休)

●場所 ●三重県上野森林公園

●場所 ●三重県環境学習情報センター

☆すべての入賞作品はこちら [https://www.eco-mie.com/center\\_info/20231107/](https://www.eco-mie.com/center_info/20231107/)

地球温暖化防止をテーマに募集した「令和5年度三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」の入賞作品16点を県内各地で展示します。

※各施設の休館日は除きます



### 世界を旅するトンボ ~ウスバキトンボ全国マーキング調査~

3/16  
(土)

- 場所 ●三重県総合博物館(MieMu) 3階レクチャールーム (津市一身田上津部田3060)
- 講師 ●市川 雄太 氏 (愛知県立岡崎高等学校 教諭)
- 募集人数 ●50人 ※先着順
- 申込締切 ●3月5日 (火)

13:15~15:15

[https://www.eco-mie.com/sponsored\\_courses/20240316\\_pantala/](https://www.eco-mie.com/sponsored_courses/20240316_pantala/)



### 2023年度SDGsミニフォーラム

#### 「みんなで話し合おう 自然エネルギーのこれから」

3/20  
(水・祝)

- 場所 ●三重県総合文化センター 中研修室 (津市一身田上津部田1234)
- 講師 ●坂本 竜彦 氏 (NPO法人 地域資源ネットワークみえ 副理事長)
- ファシリテーター ●新海 洋子 氏 (一般社団法人SDGsコミュニティ 代表理事)
- 募集人数 ●30人 (16歳以上) ※応募多数の場合、抽選

13:40~16:30 ●申込締切 ●2月21日 (水)

[https://www.eco-mie.com/sponsored\\_courses/20240320sdgsminiforum/](https://www.eco-mie.com/sponsored_courses/20240320sdgsminiforum/)



### 【展示】Ural Owl Project

#### ~フクロウをシンボルとした自然保護活動~

1/5~3/20  
(土) (水・祝)

- 場所 ●三重県民の森 自然学習展示館内展示スペース (三重郡菟野町大字千草7181-3)
- 申込み ●不要、自由観覧
- TEL ●059-394-2350 ●FAX ●059-394-2440
- e-mail ●info@mie-mori.jp
- ホームページ ●<https://mie-mori.jp/>

9:00~17:00

## \* 最近の情報 \*

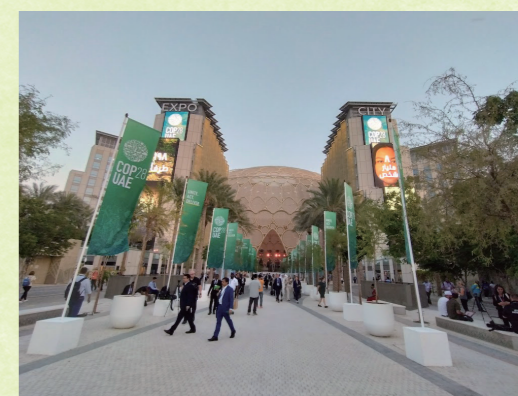
### COP28「国連気候変動枠組条約第28回締約国会議」

2023年11月30日から12月13日まで、アラブ首長国連邦(UAE)ドバイで、国連気候変動枠組条約に加盟する約200カ国・地域が参加して、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)が開催されました。



会議では初日に、気候変動による「損失と損害」を救済していく基金の運用化に各国が合意し、具体的なルールが決定されました。COP開幕日に実質的な決定が採択されるのは極めて異例なことでした。

また、パリ協定14条に基づき、各国の取り組みや進捗状況について5年ごとに評価する仕組みとなる「グローバル・ストックテイク」について、初めての決定が採択されました。



今回の会議で最大の焦点となった化石燃料に関しては、欧米の先進国や島しょ国などが強く求めた「化石燃料の段階的廃止」という表現は見送られ、最終的に「化石燃料からの脱却を進め、この重要な10年間で行動を加速させる」という表現で合意文書が採択されました。

さらに、2030年までに再生可能エネルギーの発電容量を世界全体で3倍とすることに合意し、エネルギー効率を世界平均で2倍に高めることを目指すことになりました。

2030年まで、あと数年、日本では何かと話題となっている再生可能エネルギーですが、今後、どのような対策をとっていくのか注目です。



©2023一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

令和5年度「三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」入賞作品(中学生の部)



優秀賞

津市立久居東中学校  
2年生 青木 伶磨 (あおきりょうま)



優秀賞

鈴鹿市立天栄中学校  
2年生 吉川 釉花 (よしかわ ゆうか)



佳作

松阪市立久保中学校  
1年生 宮本 心晴 (みやもと こはる)



佳作

鈴鹿市立天栄中学校  
2年生 長谷川 芽依 (はせがわ めい)



佳作

四日市市立桜中学校  
3年生 早川 綾音 (はやかわ あやね)



佳作

津市立久居東中学校  
3年生 中村 成 (なかむら なる)



佳作

津市立久居東中学校  
3年生 長門 瑞姫 (ながと みずき)